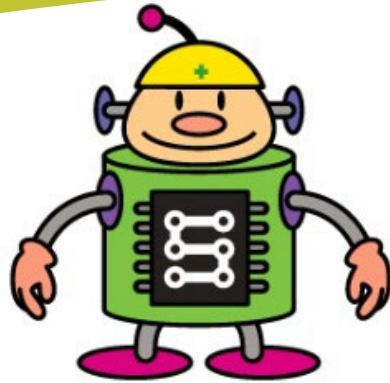


はんぞう通信

Apr 11th, 2025



- 「この頁で何を伝える？」
- おじトレから一言

はんぞう通信 Vol. 53 の内容

★メールマガジン発行のお知らせ

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度、安全教育専門委員会よりメールマガジンを Vol. 53 を発刊することになりました。
今回は、不定期掲載となります「この頁で何を伝える？」の規則編になります。

「この頁で何を伝える？」

—1.3 規則を守る—

■ 「この頁で何を伝える？」

ペンネーム ぷーココ

1.3 規則を守る

規則は何のためにあるのか

- ・自社の規則
- ・会社規程集
 - 安全管理規定
 - 防災マニュアル
 - クリーンルーム入室規定
- ・顧客の規則
- ・顧客安全規則
 - 顧客別入門規則
 - 構内ルール
 - クリーンルーム入室規定
- ・自社の規則と顧客の規則に同様の規則がある場合は、より厳しい規則に合わせること。
- ・「規則だから」という意識ではなく、「自らの安全を確保するため」という意識で行動することが重要。

安全の基本

SEAJ

5

今回はこのページを深掘りしたいと思います。

1ページ深掘りで何度も取り上げられてきた【第1章 安全の基本】ですが、一度やったら終わりではなく何度も何度も繰り返すことで、なぜ作業者がルールを守らない事が起きるのか理解することが受講者だけでなくトレーナーにも大事だと思っています。

1ページ目の【学習目的】にもあるように、『安全の基本について理解し、安全で怪我や事故がない快適な作業環境を構築するための基本について理解することを目的としています』と目的が明確に書かれています。

受講者自身が安全に対し積極的に行動するにはどのような言葉を言えば印象に残るのでしょうか？

はじめに 1/2

2年ほど前、自分が勤めている製作所でレーザー加工機のレーザー散乱光を目視する事故が発生しました。

半年後、同様の事故が子会社Aでも発生してしまいました。

もしかしたら、同様の事故にあった人は労働災害は自分や自分の職場とは関係ない、**よその製作所の出来事として他人事**のように思っていたため、インターロック、レーザー用保護メガネなどを使用していなかったのかもしれませんが。

グループ会社含め全社へ事故に関する情報共有（再発防止策、作業の見直し、類似作業職場への横展開など）を行っても最後は**作業者本人が自分の事と捉え、言われた時だけ渋々[やる]**のではなく、**積極的に規則やルールを守る！守らせる！**と意識を変えない限り同様の労働災害は繰り返されます。

SEAJ

2

第1章では自社の事故事例を紹介しています。

事故事例はごく普通の繰り返しがちな内容ですが後者の事故に関しては身近な職場で同様の作業をしているにもかかわらず作業者がルールを守らなかった。職長、グループリーダーが作業前に注意喚起を怠った。当然安全に作業するためにはインターロックを有効にする。レーザー保護メガネの着用などのルールがあります。

ルールを守らない人の多くは、ルールがなぜ存在するか理解していない、ルール的重要性を理解していない、ルールを守るのは格好悪い、ルールに納得していないなど、ただの面倒な決まりと思っている節があります。

そしてこれは感染していきます。

ルールを守らない人を放置、黙認すると、他の人もルールを守らなくなる。

はじめに 2/2

脚立の昇り方？

三点支持でしょ！

~~知ってるよ！~~

やってるよ！

SEAJ

3

受講生には【ルールを知っている】ではなく、【作業者自身がルールを守る】【一緒に働く仲間にもルールを守らせる】事が大事だと伝えるように努めています。

知ってるよ！ではなく

やってるよ！と答えてもらえるようにするには？

労災は防ぐことができ、労災ゼロにできると思っています。

現に毎日労災が発生している会社はありません。

しかし労災ゼロにするのは安衛法や SEAJ を知っているだけでは労災ゼロにはなりません。

『組織で働く全ての人には規則やルールがなぜそうなっているのか理解し、それを守る義務と守らせる責任があります。』

作業員一人ひとりがルールを守る事は当然ですが、人は必ずミスをするものと考え、本質安全設計、技術的措置、管理的措置、そして適切な個人用保護具の使用をすることでミスが起きない、ミスが起きても労災にならない措置が徹底されれば労災ゼロにできると思いませんか？

労災ゼロにするには直接作業だけでなく、開発者、設計者、技術者の力も非常に重要です。（しかし時間や金銭的な問題もありすぐには対応できない可能性もあります。）

設備面では、機械はいつか故障するもの、その不測の事態に備え、日常点検、使用前点検を行ったり、修理、改造は構造や動作に精通している有資格者たちがTBMで作業に潜む危険を洗い出し確実な手順で行ったりすることで労災ゼロにできませんか？

私たちが普段行っている作業でも稀に、部品不良による戻り作業、設備の故障などで非定常作業が発生します。

非定常作業だから安全管理のルールが決まっていなかったため、『作業前点検をしていなかった』や『保護具着用をしなかった（忘れた）』と言われることがあります。

しかし非定常作業だからこそTBMを確実にいき、危険箇所を洗い出し、危険行動の回避を共通認識することで『今から非定常作業を行うぞ』と自覚の再確認ができるルールを逸脱することがなくなると考えます。

最後に

事故や労働災害は他人事ではありません！

一人ひとり自ら安全に作業する責任があります。

あなたの人生はあなたの責任

SEAJ

6

冒頭の問いかけの私の考えです。

受講者自身が安全に対し積極的に行動するにはどのような言葉を言えば印象に残るのでしょうか？

あなたがルールを守る、守らせる事で、あなた自身と一緒に働く人々の『身体』『家族』『生活』を守る事ができます。

以上

おじトレから一言

ペンネーム うっかり半蔵

仕事中に思ったこと…

皆様お疲れ様です。

ウェハーやキャリア基板の大型化により、それらを搬送する周辺の装置も大型化、重量化しており、一つ一つのユニットサイズも巨大化、重量化しております。

正直、人力で持ったり、運んだり、組付けたりする行為自体がリスクになっております。まさに第3章のMSDs（筋骨格系障害）の原因になり得ます。パッと見て持てない大きさだと判断できれば荷役装置を使いますが、中途半端に持てそうな大きさだったら、思わず手で持とうとしてしまいます。

先日も、「装置転倒防止のための治具を組み立てて欲しい。」と言われ、現物を確認すると、肉厚5mm位の角鋼材を溶接で繋ぎ、焼付塗装までされた丈夫な構造物でした。

部品4つをM16の六角穴付ボルト10本で締結して組み立てる組図指示になっています。

一つ一つの部品が重い…

組み上がりまして、反転させて四隅に最後の部品を取り付ければ完成です。組み上がった治具を手で持って反転させようと試みましたが、重くて無理でした。感覚的に40kgくらいはありそうです。同僚を呼び、手伝ってもらって反転させました。

今後も繰り返し使用する治具ですが、持ち運びが人力では困難…

多分、腰を痛める仕様です。

設計者は安全性、耐久性等を考え、壊れず、丈夫な設計を目指しますので、どうしても出来たものが重くなりがちです。

故に、設計者は重さ、治具を使う作業者を常に意識した本質安全設計を目指してほしいと考えながら、元に戻す際は床上操作式クレーンで持ち上げて反転させました。

皆様も腰にはお気を付けください。

以上



発行責任者

SEAJ Semiconductor Equipment Association of Japan

一般社団法人日本半導体製造装置協会
安全教育専門委員会

お問い合わせ先

TEL03-3261-8261 FAX03-3261-8263

E-mail anzen@seaj.or.jp 担当者 栗原